

鹿児島島の動物30 身近な猛禽類～トビとアオバズク～

みなさん、猛禽類って知っていますか？「猛」とは、強く勇ましいという意味で、「禽」とは鳥のことです。一般にタカとかフクロのことです。その中で身近な2種を紹介します。

よく、空をピーヒョロヒョロヒョロと鳴いている大きな鳥は何でしょう？飛んでいるときは翼がややM字形に見えますよ。そうトビです。トンビともいいます。このトビは、全身が赤みがかった茶色をしている立派なタカです。開けた場所の上空を輪を描くようにゆっくり飛びながら、地上の獲物を探します。いったん獲物を発見すると翼をたたんで急降下し、足を突き出して、爪をたてて捕らえま



トビ

動物担当 山田島 崇文  
す。獲物は死んだ魚や動物、生きているカエル、トカゲなどの小動物といわれています。

また、鹿児島ではアオバズクというフクロウもなじみ深いです。アオバズクは、その名の通り、青葉が茂ってくる頃にやってくるフクロウという意味ですが、シーズンになると薩摩半島・大隅半島の各地で見られます。そして、大きな木のうろ\*に巣をつくり、子育てをします。鹿児島県内では、このアオバズクが毎年やってくる小学校があります。中には30年間観察を続けている学校もあります。ちなみにホーホーと鳴くフクロウは、このアオバズクです。\*空洞のこと



アオバズク

鹿児島島の昆虫39 中・高生によるポスター発表in喜界島 昆虫担当 金井 賢一

2012年は SPP 講座「喜界島の現在と未来を考える～昆虫をとおして～」を行ってきました。11月11日は、その集大成とも言えるポスター発表を行いました。中学生4人、高校生5人が今までの活動を広幅用紙にまとめ、移動博物館にあわせて開催された「喜界島の自然を知る講演会」の中で、来場者に自分たちの言葉で説明する企画です。

中学生は、7月16日に1学年で行ったセミの鳴き声調査についてまとめました。クマゼ

ミ、クロイワニイニイ、クロイワツクツクの鳴き声を覚えた後、スクールバスを利用して島内を聞き取り調査した結果です。次のようなことがまとめとして発表できました。

- ・曇天～小雨混じりの天候で、セミの鳴き声が少なかった。
- ・サトウキビ畑の中を走る間は、全くセミの鳴き声が聞こえなかった。
- ・クロイワニイニイが非常に多く、クロイワツクツクは局所的だった。また、クマゼミの鳴き声が3カ所で確認された。

高校生はデイゴヒメコバチにより喜界島のデイゴが大きな被害を受けていることを発表しました。また、ラデンキンカメムシが1頭確認されたこと、クロボシセセリがまだ喜界島に侵入していないことも判明しました。

今回の調査を通じて、身近な自然を見ているようで、実はほとんど知らないということに、みんな気づいてくれました。結果は研究報告書にまとめる予定です。

